

SUMIDA CORPORATION

2009年度12月期通期決算 および 新中期経営計画（2010-2012年）について

2010年2月19日

CEO 八幡 滋行
CFO 松田 三郎

- **2009年の実績** : **第4四半期および通期の業績**
 - **上期・下期毎の状況**

- **成長路線への回帰**
 - **新中期経営計画(2010年–2012年)**
 - **ピーク時(2007年)実績の更新**

- **2010年の計画**
 - **危機を脱し、成長路線への基盤作り**
 - **5-3-2-100**

2009年度12月期 第4四半期および通期の業績

2009年第4四半期/通期:連結經營成績



(單位:百万円)

	09年4Q 會計期間	08年4Q 會計期間	比較	09年通期	08年通期	比較
売上高	12,684	10,719	118.4%	43,653	55,734	79.3%
営業利益	869	△745	—	△233	2,167	—
営業利益率	6.9%	—	—	—	3.9%	—
經常利益	787	△2,340	—	△774	△146	—
当期(四半期)純利益	166	△6,758	—	△2,009	△5,743	—

2009年第4四半期 / 通期連結経営成績



	2009年				(単位:百万円)
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
売上高	8,579	10,066	12,324	12,684	43,653
		18,645		25,008	
営業利益	△1,345 (△15.7%)	△377 (△3.7%)	620 (5.0%)	869 (6.9%)	△233 (△0.5%)
		△1,722 (△9.2%)		1,489 (6.0%)	
経常利益	△1,057	△641	137	787	△774
		△1,698		924	
当期純利益	△1,071	△994	△109	165	△2,009
		△2,065		56	

仕向地別売上高



(単位:百万円)

	09.1Q	09.2Q	09.3Q	09.4Q	09年通期	08年通期	増減
日 本	1,423	1,593	2,446	2,579	8,041	8,777 Q平均 2,194	△8.4%
香港・中国	1,194	1,684	1,797	1,695	6,370	9,562 Q平均 2,390	△33.4%
アセアン	831	1,220	1,460	1,296	4,807	3,611 Q平均 903	33.1%
台湾・韓国	206	283	309	245	1,043	1,317 Q平均 329	△20.8%
北 米	688	824	1,245	1,394	4,151	4,946 Q平均 1,236	△16.1%
欧 州	4,188	4,414	5,006	5,433	19,041	27,243 Q平均 6,810	△30.1%
そ の 他	49	48	61	39	197	278	△29.1%
合 計	8,579	10,066	12,324	12,684	43,653	55,734	△21.7%

 : 2008年度の四半期平均売上高を超えた売上高を達成

セグメント別四半期売上高分析

(単位:百万円)

	2009年					
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	損益分岐点 四半期売上高
アジア・パシフィック事業	4,644	5,721	6,798	6,950	24,114	5,250
EU事業	3,247	3,433	3,996	4,424	15,092	3,750
環境・エネルギー事業	688	912	1,530	1,317	4,447	1,350
合計	8,579	10,066	12,324	12,684	43,653	10,350



： 四半期営業黒字

セグメント別営業利益



(単位:百万円)

		09年1Q	09年2Q	09年3Q	09年4Q	09年通期
アジア・パシフィック事業	売上高	4,644	5,721	6,798	6,951	24,114
	営業利益	△174	426	1,073	1,306	2,631
EU事業	売上高	3,247	3,433	3,996	4,416	15,092
	営業利益	△481	△319	29	43	△728
環境・エネルギー事業	売上高	688	912	1,530	1,317	4,447
	営業利益	△61	149	99	89	276
合計	売上高	8,579	10,066	12,324	12,684	43,653
	営業利益	△716	256	1,201	1,438	2,179
消去又は全社		△629	△633	△581	△569	2,412
連結	営業利益	△1,345	△377	620	869	△233

(単位:百万円)

	2009年				
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
ネット支払利息	△125	△170	△160	△153	△608
デリバティブ損益	316	△136	△127	137	190
為替差損益	50	21	△205	△12	△146

特別損益



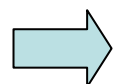
(単位:百万円)

	1Q+2Q+3Q	4Q	2009年通期
日本/アジア事業構造改善費用	△180	△292	△472
事業売却金額修正損	△400	△28	△428
ヨーロッパ事業構造改善費用	△130	△234	△364
エイワ/モステックの事業構造改善費用	—	△104	△104
VOGTに支配契約締結にかかる費用	△86	△17	△103
投資有価証券売却益	187	—	187
在庫評価損	△85	—	△85
その他	△137	△85	△222
合計	△831	△760	△1,591

(単位:百万円)

	期首利益剰余金への影響	連結損益計算書への影響
のれん	△1,629	△311
R&D	△156	△160
その他	△23	△8
	△1,808	△479

2000年～ 為替換算調整勘定（未実現損失）



会計原則の変更による純資産への影響

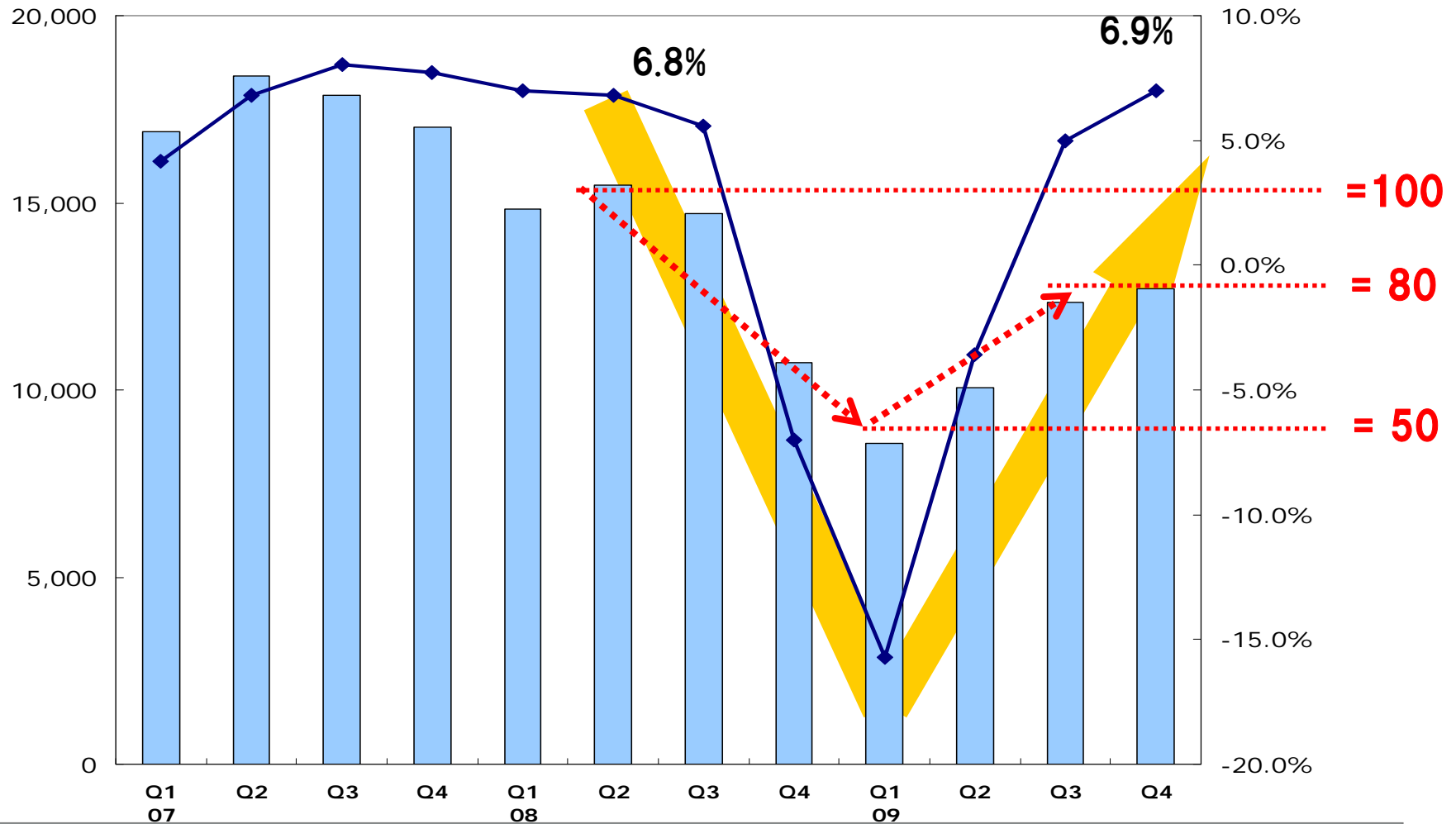
	08年12月期	09年12月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	2,015	1,888	△127
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,687	△129	1,558
財務活動による キャッシュ・フロー	2,717	△3,530	△6,247
現金及び現金同等 物期末残高	10,502	9,063	△1,439

**2009年12月期総括
および
新中期経営計画(2010-2012年)**

～ 2007年の実績の更新を目指して ～

2009年12月期総括：連結売上高と営業利益率の推移

(百万円)



- 売上高：08年2Q(=100)から09年1Qに50ポイントまで落ち込むも、09年3Q、4Qと2Q続けて80ポイントまで回復 ⇒ 回復基調が明確に
- 営業利益率：09年3Qの5.0% ⇒ 4Qは6.9% と更に改善

2009年 取組み実績

■ “Global One SUMIDA” を推進～グループ会社の事業運営を完全に一体化～

- 旧SUMIDAと旧VOGT製品のクロスセルの促進
- グローバル・キーアカウント制により、主要顧客のニーズに対応
- 最適地生産・開発の推進
- Global Cash Managementの強化 : 欧州金融子会社設立(1月)による資金・為替のグローバル管理体制構築
- 旧VOGTとのDomination Agreement締結、非上場化(実質完全子会社化)

■ 収益改善策の実施 ～主に固定費削減の推進～

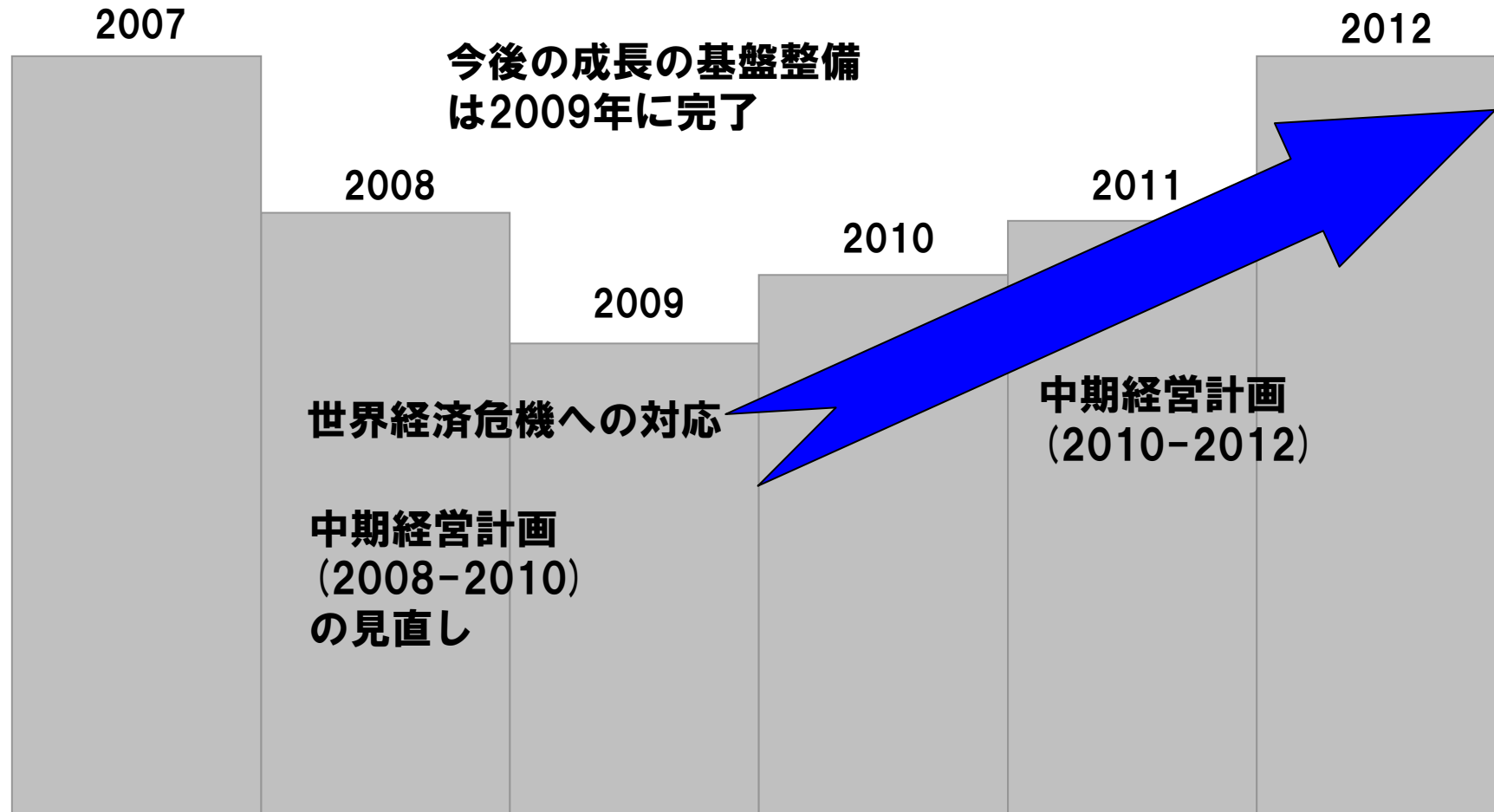
- 人件費削減 : 全地域で人員の適正化と賃金削減
- 生産体制再編 : メキシコ工場 ⇒ 中国への移管等、最適地生産の推進
⇒ これらの施策で固定費が大幅に低下

■ 事業ポートフォリオの拡大

コンコルド電子工業の買収(7月)により、医療機器分野の事業基盤を獲得
(昨年はエイワ、モステック買収でパワーエレクトロニクス事業を強化)

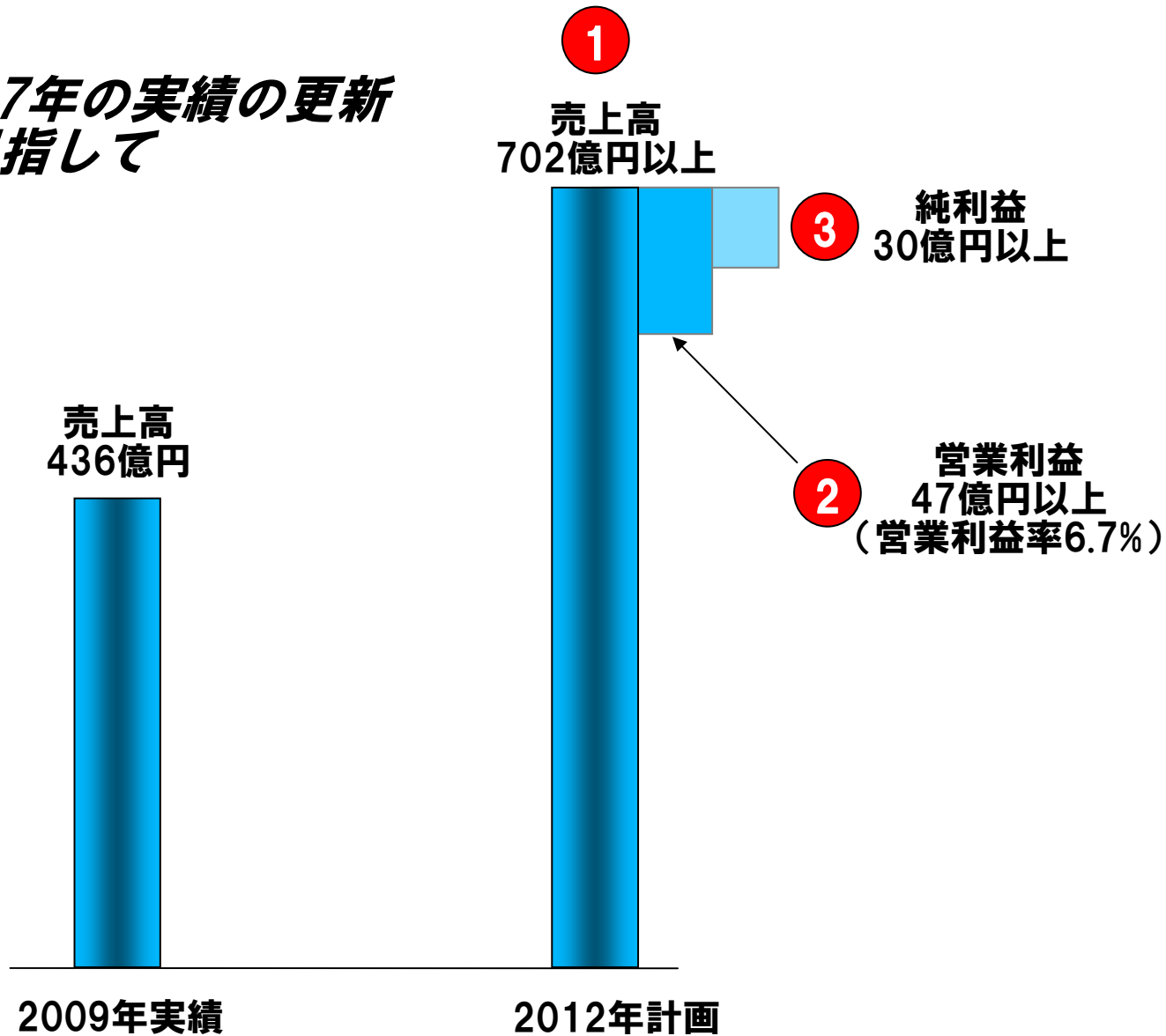
新中期経営計画（2010-2012年）

売上高の推移と今後の計画



数値目標（2010年-2012年）

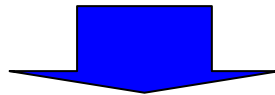
2007年の実績の更新
を目指して



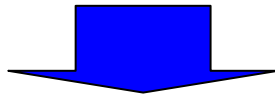
- 2012年までに次の数値目標（連結ベース）の達成を目指します。

① 売上高	:	702億円
② 営業利益	:	47億円（営業利益率6.7%）
③ 当期純利益	:	30億円

- スミダは2007年に売上高、利益ともにピークを記録



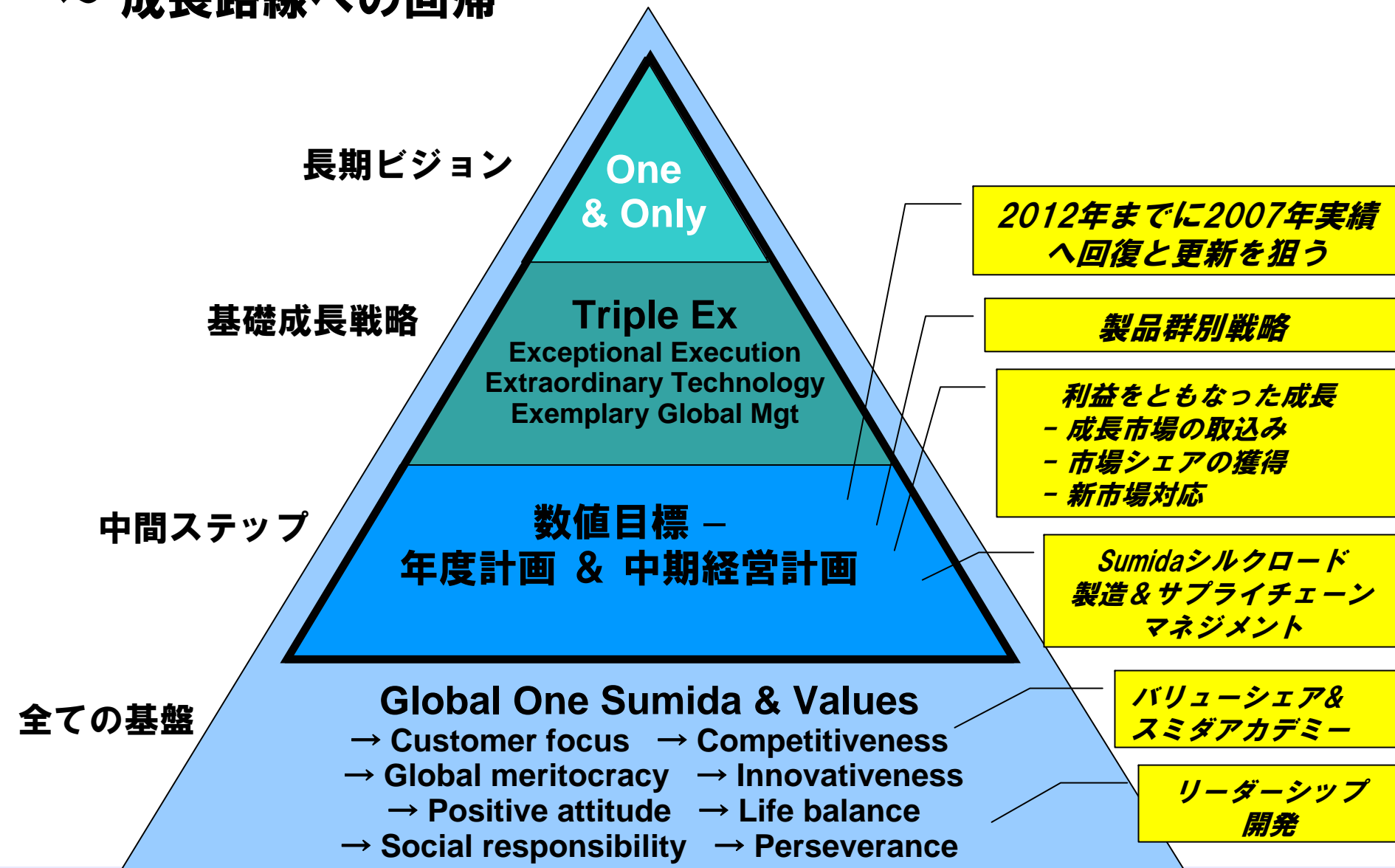
2008年後半からの世界経済危機の影響で業績が低迷



2012年までにピーク時実績への回復と更新を狙う

新中期経営計画（2010年-2012年）

～ 成長路線への回帰



**利益を伴った
持続的な成長の
達成**

**外部環境の変化への
対応・抵抗力の向上**

Global One Sumida

*世界に広がるスミダグループの会社の
事業推進を一体化させ、成長市場に注力*

製造のシルクロード構想

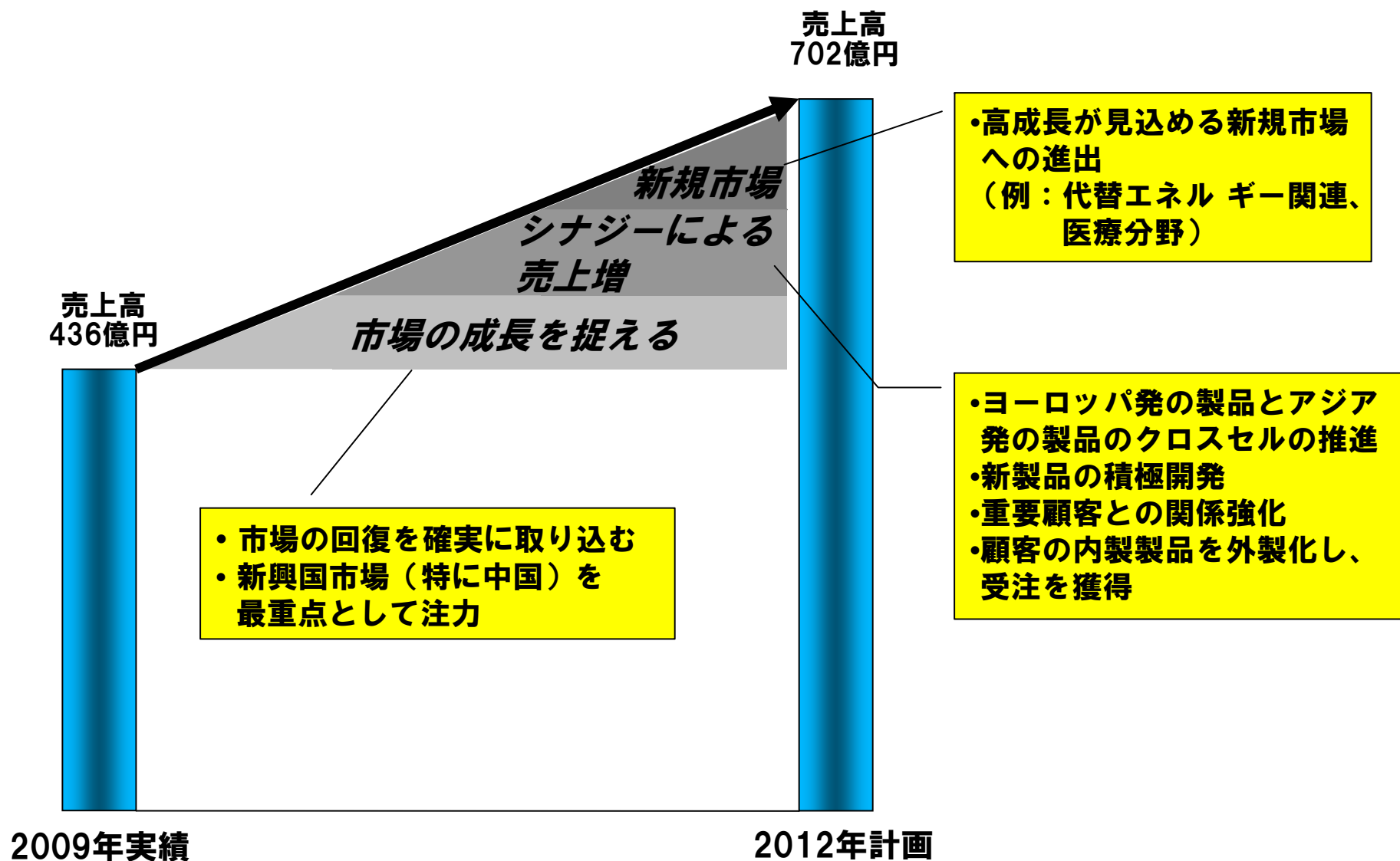
*低コスト生産体制を強化、拡充するとともに、
世界中の顧客ニーズに迅速に対応できる物流
体制を構築*

グローバル人材育成の強化

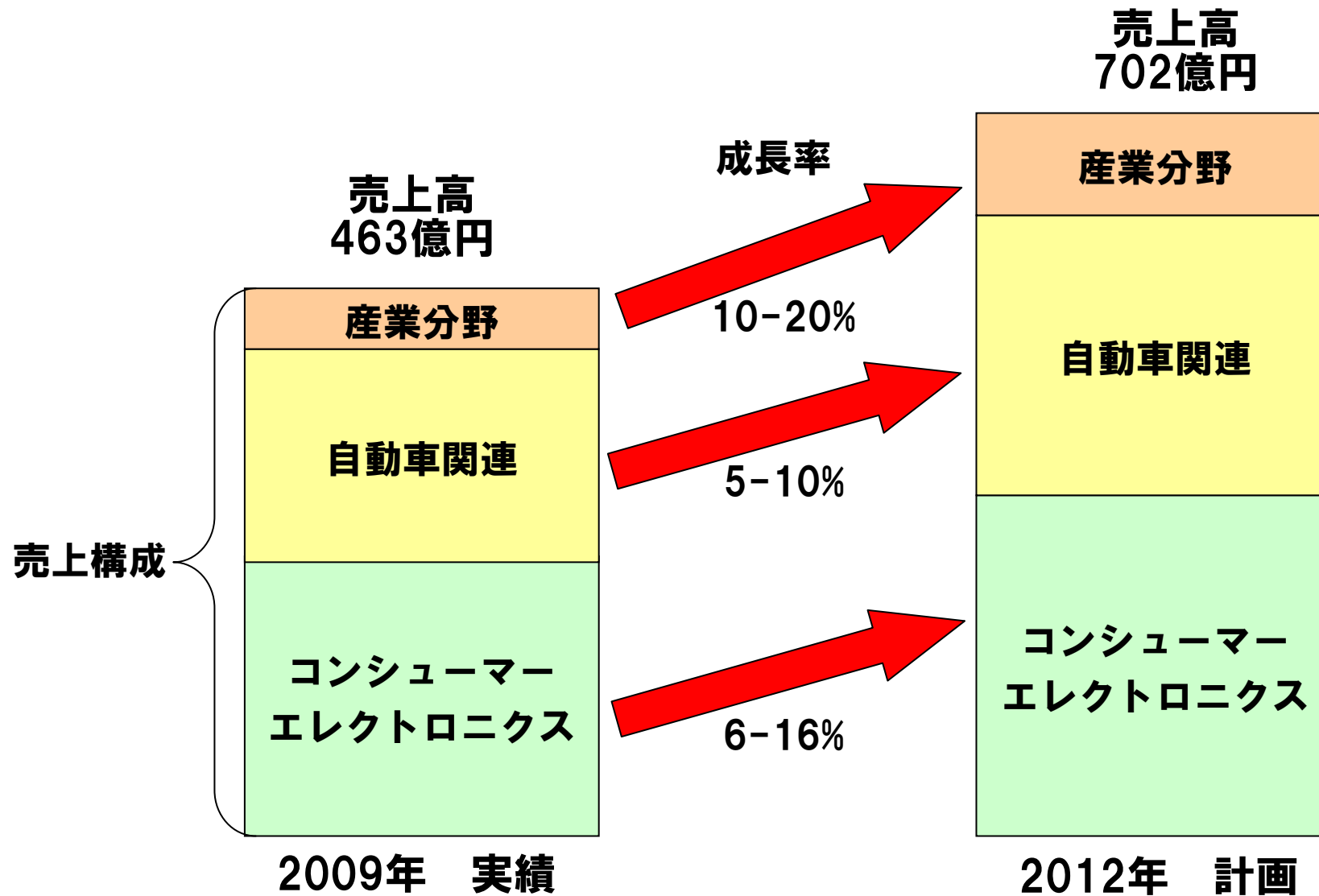
*持続的な成長の基盤となる人材を育成すると
ともに、経営理念を浸透させ真の
エクセレントカンパニーに*

**巻線コイル技術
を活かし幅広い
事業分野でリー
ディングポジ
ションを確保す
るグローバルエ
クセレントカン
パニーへ**

成長の戦略 — 3つの要素



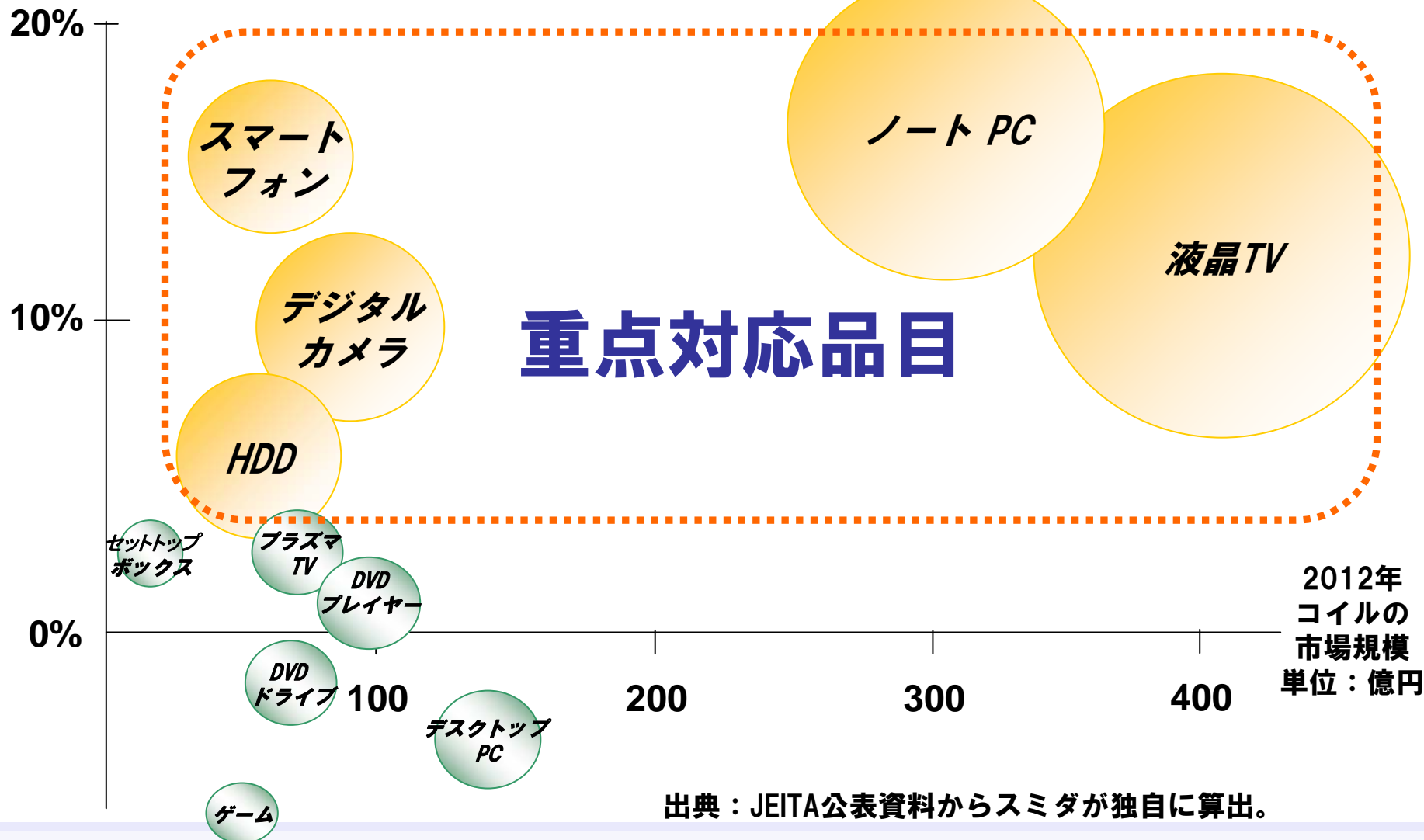
各市場の成長予測（2009年－2012年）



*成長率は各種公表資料から当社が独自に予測

コイルの市場規模と成長率（2009年-2012年のコイル使用品目）

成長率（年率%）



コンシューマーエレクトロニクス

－ スミダの重点注力製品

重点対応品目	当社製品
液晶TV	トランス（フラックストランス）
ノートPC	パワーインダクタ（鉄系コア）
スマートフォン	パワーインダクタ（大画面、多機能化対応）
デジタルカメラ	パワーインダクタ（ストロボ用コイル）
HDD	電源トランス モーターコイル（旧エイワ製品）

➤ 対応事項

- ①市場対応：新製品・新機能対応、短納期対応、需要変動対応
- ②仕様面：小型化、耐高温対応

世界自動車売上 [単位：百万台]				
	2008	2009	2010	2018
ガソリン自動車	69	59	61	71
ハイブリッド車	0.55	0.87	0.87	1.97
電気自動車	<0.1	0.1	0.1	0.45

地 域	2008	2009	2010	2011	2012
ヨーロッパ	17.5	14.7	14.9	16.1	17.1
北 米	12.6	8.3	10.1	12.0	13.5
南 米	3.74	3.50	3.83	4.26	4.55
東 欧	3.30	1.85	2.14	2.93	3.53
中 国	7.34	9.57	10.5	11.8	12.9
日 本	10.8	8.16	9.09	9.54	9.61
イ ン ド	1.98	2.28	2.59	3.06	3.55

市場シェア上位の製品

- ABSコイル
- Xenonイグナイター
- キーレスアンテナコイル

いずれもガソリン車/電気自動車の区別なく使用される製品

- 価格対応や顧客ニーズに適切に対応し、シェアの維持・向上を図る
- 次世代モデルの開発に積極的に取り組みマーケット・リーダーの地位を維持する

高成長製品への注力

- (1) ロータリー・ポジション・センサー (特に電気自動車へ)
- (2) カスタムメイドのモジュール製品 - パートナーシップの強化
- (3) ヨーロッパの技術を新興国へ 例：HID
- (4) Tier 1 とのパートナーシップの強化 - デザイン・インの推進
- (5) OEMとの協業 - デザイン・インの推進

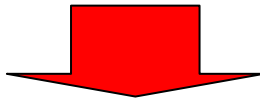
成長地域・国対応

- (1) 中国市場への注力
- (2) 中国へ進出しているヨーロッパの自動車メーカーとの関係強化

高成長が見込める分野への進出 ⇒ 将来の利益の源泉

代替エネルギー関連分野

- 原油価格の高騰と価格変動
- CO2 排出量の削減とその義務化



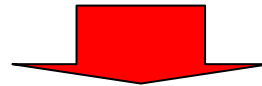
- スミダ既存のパワーソリューション関連技術に加えて買収等で技術力の補完・統合を図る
- 太陽光発電システム（特に家庭向け）への採用（例：パワーコンディショナー）
- スミダの得意とするカスタムメイド製品の開発力を太陽光・風力発電メーカーへ提供する
- 米国、中国市場への進出



パワーコンディショナー
：平角電線のエッジワイズ巻線技術を活用

医療分野

- 高齢化の進展と医療費の増加
- 医療及び医療用機器の技術の発達と応用分野の拡大
- 世界市場は 25兆円以上



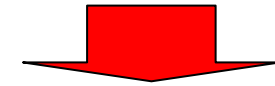
- スミダ既存の技術に加えて買収等で技術力の補完・統合を図る
- 医療機器で適用範囲の広いインダクタンス、絶縁トランス(過電流を防止するトランス:医療機器が誤作動を起こさないため)の提供
- 医療分野に求められる品質保証体制(安全規格)の更なる整備



心電計、脳波計
等に使用

RFID 関連技術

- 応用範囲の拡大
- 潜在市場が

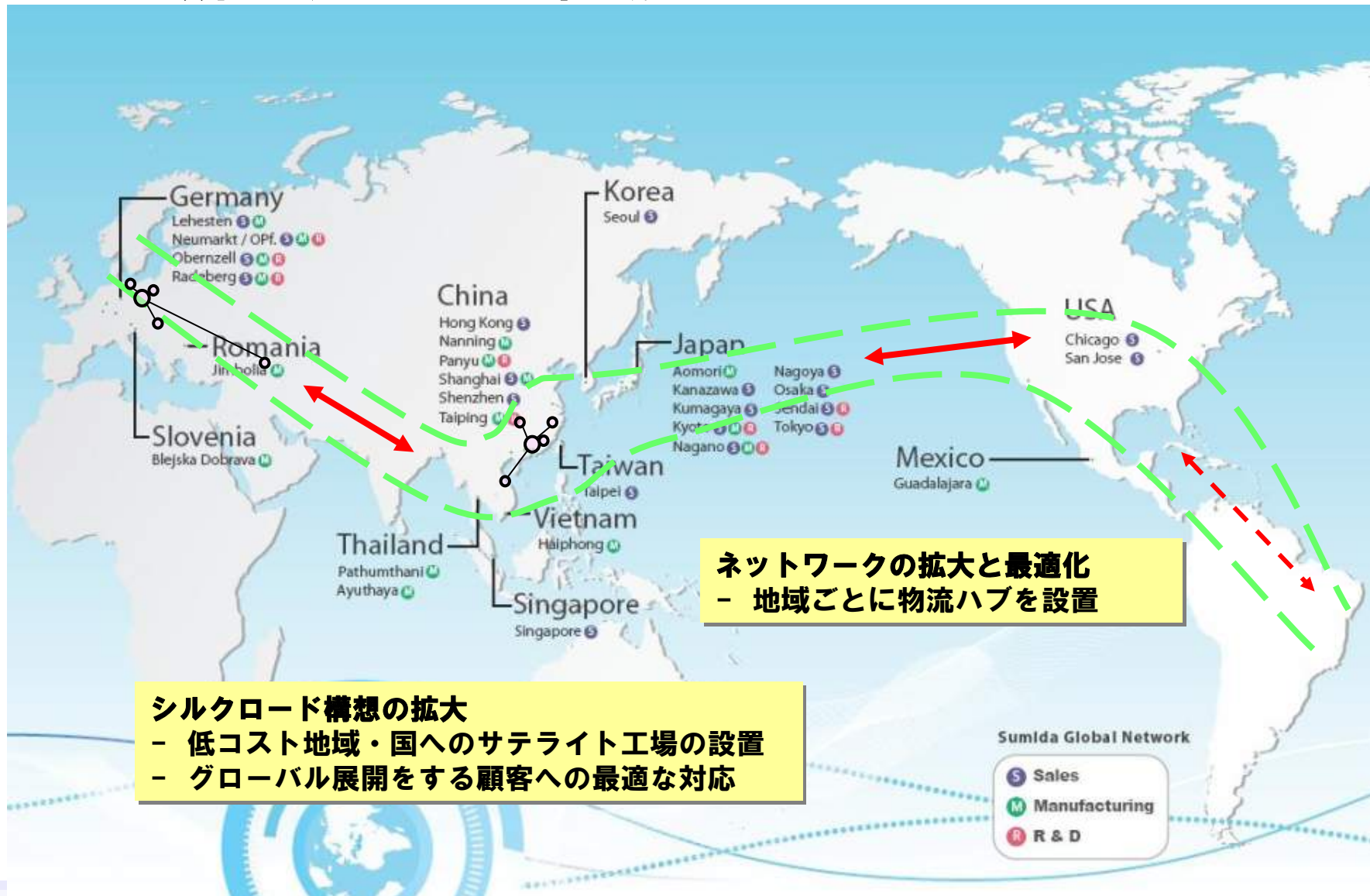


- 現在は家畜（牛）のイヤータグでの使用が多い（個体を識別するため）が他の家畜への応用も考えられる
- 個体管理やトレーサビリティ（生産履歴管理）が必要な分野での応用の可能性が非常に大きい

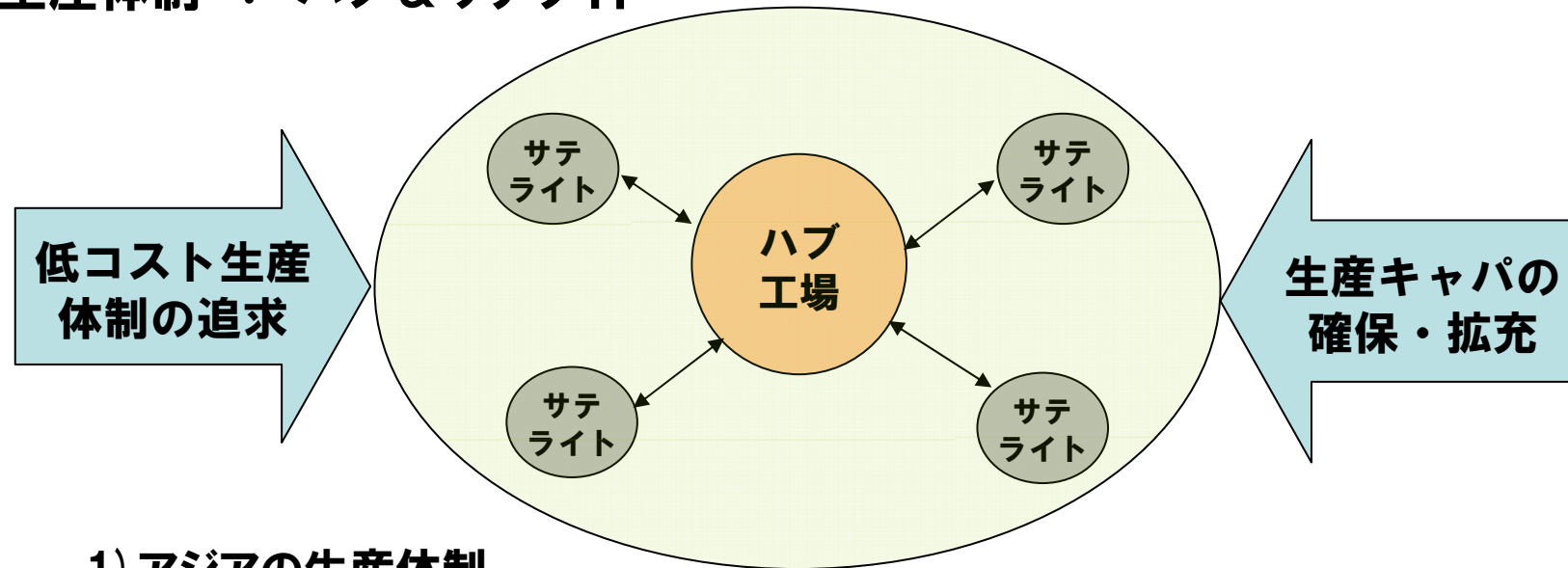


RFID：家畜の
イヤータグ用

一 顧客対応とコスト低減の両立



生産体制：ハブ＆サテライト



1) アジアの生産体制

a. 中国広東省広州市番禺の華南製造センター

低コスト生産ネットワークのハブ機能 & アジア・北米向け量産

b. サテライト工場

中国の太平、ナンニン(南西部)、バンコク(タイ)、ベトナム(ハイフォン)

今後更に中国内陸部にサテライト工場を複数設立予定

2) ヨーロッパの生産体制

a. エラウ工場(ドイツ)

ヨーロッパの生産ネットワークのハブ機能

b. ルーマニア、スロベニア工場は量産工場

2010年12月期 連結業績予想



Target “5-3-2-100”

(前提：US\$1=¥90, €1=¥127)
(単位：百万円)

	2010年 通期予想	2009年 通期実績	比較	
			金額	%
売上高	50,000	43,653	6,340	14.5%増
営業利益	3,000	△233	3,233	-
営業利益率	6.0%	-	-	-
経常利益	2,400	△774	3,174	-
当期純利益	2,000	△2,009	4,009	-
一株当たり利益	100円	-		

⇒ 2009年度の収益改善策の効果で営業利益率6%達成の見込み

⇒ 事業構造改革は2009年度で完了、2010年は特別損失見込まず

(前提: US\$1=¥90, €1=¥127)

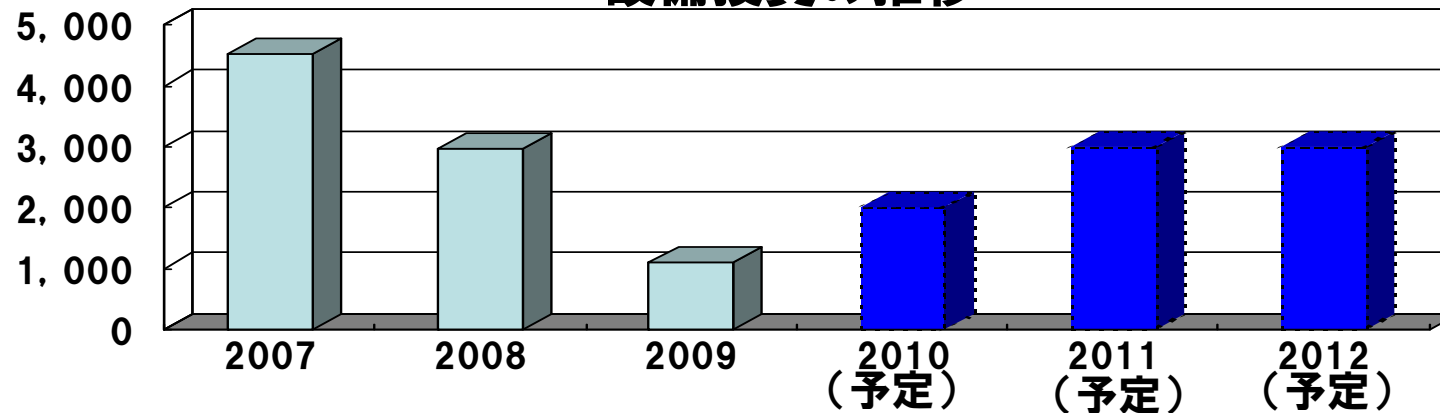
セグメント別業績予想

(単位: 百万円)

	アジア・ パシフィック 事業	EU事業	環境・ エネルギー 事業	本社費用	合 計
売上高	25,700	18,080	6,220		50,000
前年実績 前年比	24,114 6.6%増	15,092 19.8%増	4,447 39.9%増		43,653 14.5%増
営業利益	3,460	500	300	△1,260	3,000
営業利益率	13.5%	2.8%	4.8%		6.0%

単位：百万円

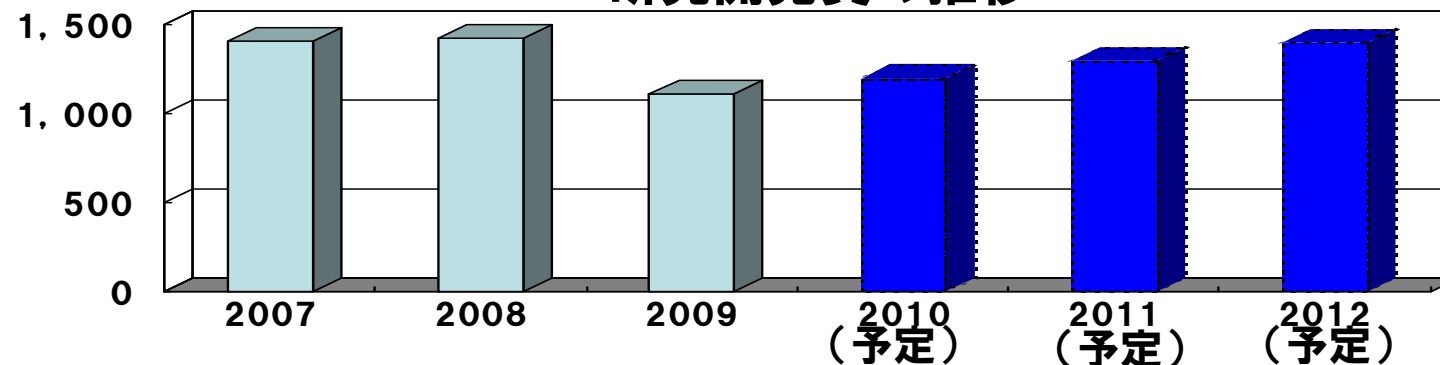
設備投資の推移



2009年は設備投資を抑えたが2010年以降は必要な投資は実施する。
*2007年はC-Lab を設置したため通常年より投資額が多かったため、
2012年の投資額は2008年の水準に戻す。

単位：百万円

研究開発費の推移



2009年は研究開発費を抑えたが2010年以降は研究開発投資を増やす。
2012年度は2007年の研究開発費の水準に戻す。

業績連動配当

安定配当

両立を図る

1. 年間基準配当額

連結純利益(計画) × 基準配当性向 25~30%

⇒ 年間基準配当額 (ただし年間20円以上)

2. 期末調整

基準配当額 + 期末調整額 (下表の+α)

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間合計
2010年予定	5円	5円	5円	5円+α	20円+α

ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。要約された記述、引用、データ及びその他の情報を含む当資料の内容は、情報提供を目的としたものであり、スミダコーポレーション株式会社についての投資勧誘、あるいは売買の推奨を目的とするものではありません。当資料に記載されていることは、事前の予告なしに変更もしくは存続しなくなることがあることをご承知下さい。当資料は、現時点で入手可能な情報及びリソースをかんがみた現時点の予測及び所信に基づく、将来予想に関する記述及び将来の成果の見込みを含んでいます。リスクと不確実性は、知られている場合及び知られていない場合の両方を含み、経済状況、金利の変動、競合のシナリオ及び規制、税制、会計原則の変更などに関連するところを含み、スミダコーポレーション及びグループ会社の実績、パフォーマンス、達成状況及び財務パフォーマンスについて、当資料で明示的に又は黙示的にあらわされたことと著しく異なるようなことを生じさせることがあります。当資料に関するすべてのことについて、限りなく、提供する情報について正確を期すようにしております。しかしながら、その正確性と完全性に関して、完全な保証または誓約は全く与えられておりません。スミダコーポレーションあるいはそのグループ会社は、いかなる誤り、不正確、もしくはそのことに付随して発生したいかなる損失、損害にも責任を負いません。また、当資料の日付以降、当資料に含まれる情報を公にアップデートする義務も負いません。